

PPIH流サステナビリティの実践

オールジャパンで日本の農畜水産物の

日本国内では少子高齢化と人口減による、食料品の需要先細りが将来の課題としてありますが、日本の優れた農畜水産物を「美味」「健康」「環境」をコンセプトに海外で販売網を広げていき、輸出増進や海外での市場開拓を実現しています。日本の農畜水産物を輸出し続けることで、出荷の持続性が担保され、生産者さまは作付や生産を計画的にでき、市場に左右されない適正な

の輸出に挑戦し、日本の一次産業の新しい展開に貢献

収入を安定的に得られるようになります。そして、生産者さまが安心して生産に集中できる環境を整えることで、日本の一次産業が抱える問題、例えば、次世代の担い手の拡大や日本の美しい水田や里山の維持に間接的に貢献できます。エコロジーとサステナビリティがANDであることこそが、PPIH流のサステナビリティの実践だと考えています。

日本製品の輸出拡大に向けたパートナーシップ組織 PPIC

当社グループは2020年10月に、日本の農畜水産物の輸出拡大を目的に、“オールジャパン”として輸出に取り組んでいくため、生産者さまや輸出に携わる事業者さま、関係団体さまとPPIHグループのパートナーシップ組織である「PPIC (Pan Pacific International Club)」を発足しました。2024年6月末日時点で、日本全国の324社の生産者さま、物流や卸など流通に関わる事業者さま116社、公官庁や自治体、金融機関など輸出業を間接的にサポートする事業者・団体さま87社の合計527社が参加しています。参加される方々が、「商品」「物流」「各種規制」という輸出における課題に対し得意とする分野で向き合い、PPICを通して有機的に連動することで、輸出に最適なサプライチェーンを構築します。

<https://www.ppihgroup.com/ppic/>



生産者さまを支援するための体制

「ジャパンブランド・スペシャリティストア」をコンセプトに展開する当社グループの海外店舗では、品質の高い日本の農畜水産物を、海外でも購入しやすい価格で提供できる環境を整備するほか、全国の生産者さまが安定的に輸出を拡大していくことを支援し、世界に日本製品の流通革命を起こすことで、すべてのステークホルダーがメリットを享受できる好循環をつくり出し、最終的に日本の農畜水産物の販売拡大と普及活動に貢献したいと考えています。そのためには、生産者さまが従来と地続きの生産を行うだけでなく、海外でニーズの高いアイテムの開発や計画的に生産を行えるようサポートすることが欠かせないと考えています。そのため、PPICでは海外マーケット情報などをお伝えする各種セミナーやビジネスマッチングなどの開催、さらにPPIC会員であるリース企業さまや投資会社さまなどをご紹介しますことで、サポート体制を整えています。



さらに、厳しい基準をクリアした信頼できる商品を海外のお客さまへお届けするため、食品安全・労働環境・環境保全に配慮した食品を生産している農場の証である「GAP」認証の取得も推奨しており、世界基準の食の安全と持続可能な生産管理を実施する農場の国際認証である「GLOBAL.G.A.P」を取得した農場で生産された商品を優先的に取り扱っています。

PPIC×自治体の連携協定

日本製品の開拓強化にあたり、自治体との連携協定を進めており、8県1市との連携協定を締結しています(2024年6月末日時点)。自治体との連携協定を締結していくことで、各県の生産者さまとのマッチングの機会を増やすとともに、官民一体となり生産者さまの輸出事業をフォローできる体制を整えています。

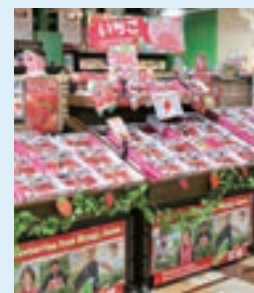
海外の店舗では連携協定を結んだ地域や特産品を紹介するフェアを定期的に行っており、日本製品の認知拡大につながっています。

生産者さまが思いを込めて生産し、PPICを通して様々なプレイヤーが協力しワンチームで輸出した商品は、現地のお客さまに喜ばれています。

アジア店舗の売れ筋ベスト

- 🏆 1位: 和牛
- 2位: 寿司・刺身
- 3位: いちご
- 4位: ぶどう (シャインマスカット等)
- 5位: 焼き芋

対象: アジア6か国のDON DON DONKI店舗 (2023年1月~2023年12月)



VOICE

アグベル株式会社
代表取締役
丸山 桂佑 さま

山梨県のぶどう農家の3代目として生まれました。山梨県の農業従事者の平均年齢は70歳と言われていますが、私たちの会社は、平均年齢29歳のおそらく一番若い農業法人です。

現在、ぶどうと桃を合わせた総出荷量のうち40%ほどを輸出しており、PPIH向けには2021年よりアジアの店舗へシャインマスカット、ピオーネ、巨峰の輸出に取り組んでいます。海外では国内よりも大粒の房が好まれるとのことで、粒を間引いて大きさや重量を調整し、海外企画の商品づくりに挑戦してきました。

これまで、高齢化により耕作放棄地となった土地を集約してきましたが、これにより農業生産を大規模化でき、就農時から生産規模は20倍に拡大できました。今後は設備投資を進め、加工品開発まで手掛けることも視野に入れていきます。ぜひPBの加工品開発も一緒にできると嬉しく思います。



VOICE

PPIC事務局
事務局長
檜山 健一

PPICの会員数は現在500社を超え、47都道府県すべてに会員さまがいます。

PPICでは、会員さま同士を紹介し、生産課題を共有し合える環境を提供したり、自治体や金融機関をご紹介しますことで、栽培や農業経営の手助けになれるよう努めています。逆に、当社から海外の規制を遵守した作物の栽培を依頼することもあり、会員さまとはまさに二人三脚で輸出に向かっています。

このような取り組みの結果、PPIC発足直後と比べて取引額が10倍以上伸長した生産者さまもいます。会員の皆さまが丹精こめて作った作物は「価格に見合う以上の“価値”がある！」と、海外では高い評価を得ています。

PPIC事務局は、今後も会員さまの“商品”と“想い”を世界中の顧客に届けていきます。

TOPIC

二温度帯対応コンテナを世界で初めて海上輸送で活用

海外への農産物などの輸出にあたり、2023年11月より、オーシャン ネットワーク エクスプレス、NAX JAPAN株式会社と連携し、二温度帯対応CAコンテナの海上輸送トライアルを行っています。本コンテナは庫内が間仕切りで2つに分かれており、適正温度の異なる品目の混載が可能となっています。積載効率の向上によるコストの低減や在庫ロス削減(フードロス削減)、コンテナ本数削減による減便でのCO₂排出量削減も期待されます。

